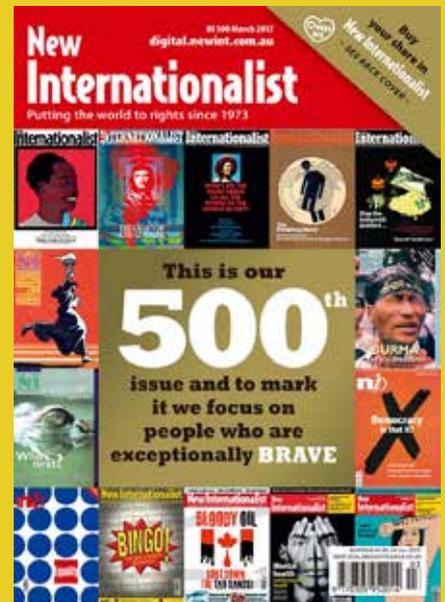


ニュー インターナショナルリスト

勇気とは何か



KEYNOTE

勇気について

何が人々を勇敢にするのか？ バネッサ・ベアードが、世界を変えうるとして研究されている勇気の本質にせまる。

勇敢な物語が好きでないという人はいるのだろうか？

勇敢な物語は、羊飼いの少年ダビデが巨人ゴリアテと対決した話〔訳注：旧約聖書の「サムエル記」〕から、ギルガメッシュが怪物フンババを倒した話〔訳注：メソポタミア神話の『ギルガメッシュ叙事詩』〕、ハリー・ポッターと仲間たちが恐ろしいロード・ヴォルデモートに立ち向かった話まで、すべての文化、伝統、時代に登場する。

人々がハンデを克服し、恐怖と狭量な保身的姿勢を乗り越えていく話は、聞く者をワクワクさせる。

そして実際に勇気ある行動に遭遇すると、私たちが考える人間性や美徳の実現性に対する自信は深まっていく。

例えば、2015年フランスの電車内で、AK47を乱射するテロリストにタックルし、武器を取り上げて多くの命を救った乗客たちがいた。

あるいは、イングリッド・ロヨー・ケネットという普通の人だが普通ではない女性。2013年5月、彼女がロンドンの53番バスに乗っていた時、市内の路上でリー・リグビーという若い兵士が倒され刃物でめった切りにされ殺されそうになっているのを目撃した。

イングリッドはリグビーを助けようと、バスを飛び降りたが遅かった。彼の頭部はすでに切断されかけていたのである。次に彼女はリグビーを襲った2人組（大なた、肉切り包丁、拳銃で武装していた）のそばまで行き、助けが来るまで彼らに12分もの間話しかけ続けた。

後に彼女が語ったところによれば、犯人をひきつけておくことで、集まってきた女性や子どもを含む周囲の人々が襲われないようにしたかったのだという。助けが到着する

と、彼女は再びバスに乗って目的地へと向かった。その後のインタビューで彼女は、自分の行動を英雄的だとは思っておらず、人としてすべきことをしただけだ、と述べた。

勇気とは何か

アリストテレスにとって勇気は美徳であり、人間の精神の最も優れた資質である。ウィスコンシン大学で政治学を教えるリチャード・アブラメンコによれば、勇気は、人が個人主義的で孤立した物質主義



@dannymckieman

イングリッド・ロヨー・ケネットが、他の人に危害が及ばないようにリー・リグビーを殺害した犯人に話しかけている様子。犯人はまだナイフを手にはしている。



Illustration by Donough o'Malley

的な存在から抜け出すための主要な手段である。

アブラメンコは次のように書いている。「勇気は、…命と身体を何かのためにあえて危険にさらそうという意志である。言い換えれば勇気は、私たちが気にかけている物事をあらわにする…。それは、自分に打ち勝つための励みとなっているものを明らかにする。そして、勇気がかくも心を打つのは、自分自身に打ち勝つというその性質のためだ。私たちは、現実の勇気ある行動に出会った時、その勇敢な人にとって何が根本的に最も重要なかが即座に分かる。それは、その人自身やその人の物質的

な幸福ではない」(1)

肉体的な勇敢さは最も注目を集め、賞賛と栄誉を得る。しかし勇気は、モラル、知性、感情、精神、政治、社会、魂、金銭関係など、さまざまなところで示される。

多数意見とは異なる考えを表明するときや、社会規範から外れた言動に向けられる敵意や冷やかしと向き合うときには、勇気を奮い立たせねばならない。

勇気の本質と科学

勇敢な人々は、よく「恐れを知らない」と評される。しかし、勇気は

恐れを知らないということではない。ネルソン・マンデラは、こう回想している。「私が学んだことは、…勇気ある人とは恐怖を感じない人ではなく、恐怖を克服する人だ、ということです」

ことにあたって恐怖がないのであれば、勇気など不要だ。

怖さを認めると無力感が生まれる可能性がある。しかし、勇気を奮うための第一歩は、怖さを感じることだ。そして、スーザン・ジェファーズの自助努力に関する名著にならって言えば、その怖いと感じることをとにかくやってみることなのだ。(2)

英雄的な行為の際に恐れを感じない人でも、後からトラウマ（精神的外傷）を受けていたことに気づくことがある。ロヨー・ケネットも事件の後、何カ月も鬱状態に陥った。

恐れないことを称えるということは、欠陥を美德として扱っているだけなのかもしれない。実際、ウルバツハ・ビーテ病という珍しい疾患では、恐怖を司る脳の部位である扁桃体が破壊され、恐怖を全く感じなくなってしまう。

「生物学的に言えば」と科学作家のジェフ・ワイズは言う。「勇気が生まれるのは、脳の決断中枢である前頭前皮質と、恐怖の中枢となる扁桃体との間に起こる本能的な葛藤からです。予期しない危険な状況に陥った時、扁桃体は論理的に判断する能力を妨げる信号を前頭前皮質に送るのです」(3)

これが恐怖心を麻痺させるのだ。

勇敢に振る舞う人々は、恐れに屈しないように見えるが、冷静で現実的な反応は、徹底的な準備によってもたらされる場合もある。消防士、航空スタッフ、救命救急士、兵士などは、危険で予期せぬ状況に備えて訓練されている。そういう人々の反

応は、ほとんど身体に刻み込まれている「筋肉記憶」のようなものだ。

2009年の研究でイェール大学の精神分析医のディーン・アイキンスは、極度のストレス状態でどのような生体内化学反応が起こるのかを兵士を対象に調べた。そして彼は、冷静さを保っていた兵士は「ストレス」ホルモンのコルチゾールの生成が少ないことを発見した。またそのような兵士は、コルチゾールの影響を抑制する神経ペプチドYの生成が多いことが分かった。彼の研究が示していることは、ホルモンのレベルを測定することで、プレッシャーの下で冷静を保てる人とそうでない人を推測することが可能になるということだ。(4) 神経科学者が行ったより最近の研究では、勇敢な行動の間に活性化される脳の部位として、前帯状皮質膝下部 (sgACC) が特定された。(5)

情熱と思いやり

しかし多くの分析家たちにとって、湧き上がる勇気とは、より感情に関連するものである。本稿の枠組みとして参考にしたのが、心理療法師のメラニー・グリーンバーグが提唱する勇気の主な6つの特性という有用な分析だ。この分析を一言で言えば、「自分の心に従う」ということになる。

彼女は、20世紀の日本の俳優の草分け的存在である小松みどり [訳注：1891年生まれで、大正から昭和30年代まで舞台や映画で活躍した] の言葉を引用する。「私たちが熱狂に駆り立て、尋常ではないことをさせ、自分を発見し、挑戦に向かわせるのが、情熱なのです。勇気の根源にあるものは、情熱ではなく、情熱であるはず」

そして、思いやりも同様だ。

今号では、特に勇敢な6人の人々を取り上げているが、彼らの話は情熱だけでなく思いやりにも満ちている。

タチアナ・ヴィヴィアンは、最も弱い立場に置かれた少女と女性たちに手を差し伸べるため、中央アフリカ共和国の日々の暴力にも負けずに立ち向かう。エクアドルのアリシア・カウィーヤは、石油企業によってひどい破壊を受ける人々と環境を守るため、国から地域まですべてのレベルで当局側に抗議する。トランスジェンダーのコミュニティを「愛する」ホンジュラスのジロ・コルドバは、何度も命を狙われているにもかかわらず、殺されたり虐待されたりしているトランスジェンダーの人々のために、罪を償わずに逃れている人々を追及している。

紀元前6世紀の中国の哲学者、老子が言うように、愛されれば強さが生まれ、深く愛すれば勇気が生まれるということだ。彼はまた、「思いやりから勇気生まれる」とも述べている。

この考え方は、今号で取り上げているアブドゥラ・アル・カティーブにも共通するだろう。彼は難民に対して人道的な取り組みを行っており、その活動によってシリア紛争の両陣営から狙われるようになった。しかし、それでも取り組みをやめることはない。「人々を思いやる場合、負うべきことは全体に及びます」と彼は言う。

正しいことのために立ち上がる

多くの場合勇敢な人々は、道徳的な見地から明確な目的意識を持っている。

私たちがインタビューした他の

人々と同様に、環境活動家のムギランは、インドのタミルナドゥ州を「搾取、破壊している」ビジネスの強力な利権者たち、そして彼らに雇われた暴漢に立ち向かうため、殺害予告をものともしない。彼の勇気は、常に「世の中が動く仕組みを変えることを決意した人間」でいることから湧き起こる。

今日、世界で最も勇敢な人々に含まれるのが、人権擁護の活動をしている人々だ。「サウジアラビアの人権活動家は絶滅危惧種です」と国際人権団体アムネスティ・インターナショナルのリン・マーロフは述べた。「起訴、投獄、脅迫による沈黙、あるいは亡命を強いられ、彼らはひとりずつ消えていっています。表現の自由に対してはどんなに小さな違反も見逃さないという、当局側の姿勢の現れです」

内部告発者もまた、活動には大きな代償を支払っている。仕事だけでなく、友人、いろいろな方面との関係、家、自由を失うこともしばしばだ。例えば、米国が隠しておきたかった不正を暴いたチェルシー・マニング [*訳注1]、エドワード・スノーデン [*訳注2]、そして最近ではバレット・ブラウン [*訳注3] の例は、米国政府の報復の大きさを感じさせる。(6)

以上の例では、連帯、すなわち内部告発者の行動を支えるために実際に動く人々の存在が欠かせない。

*訳注1：元米陸軍兵士。機密外交文書をウィキリークスに漏洩したとして2013年に禁錮35年の実刑判決を受けた。だが、今年1月にオバマ大統領が特赦を与えた64人に含まれ、5月には釈放の予定。

*訳注2：元米国諜報機関職員。米国政府による世界規模の情報収集活動の仕組みとその内容を暴露した。現在は、米司法当局の逮捕を逃れるためにロシアに滞在

している。

* 訳注3：謎のハッカー集団アノニマスのスポークスマンとも言われていた、活動家でジャーナリスト。米政府の情報収集業務を受託していたストラットフォー社の情報漏洩捜査を妨害した容疑で逮捕され、昨年5年の刑期を終えて釈放された。

困難な中での忍耐

米国の詩人ラルフ・ワルド・エマーソンは、「英雄は、普通の人よりも勇敢であるというわけではありません。ただ、5分だけ長く勇敢でいられるのです」と言う。

社会正義のために長きにわたって苦闘を続ける勇敢な人々によく見られる特徴は、困難のまっただ中でもしっかり耐えることができるという特徴だ。

トルコ人弁護士で元新聞編集委員であるエレン・ケスキンは、特に少数民族クルド人への対応に関して政府を批判したため100回以上起訴された。そして何年にもわたり、いくつもの実刑判決を受けてきた。2016年7月の失敗に終わった軍事クーデターの後、彼女はパスポートを没収された。今回はエリンにもイ

ンタビューする予定だったが、彼女は再び裁判の渦中にある。

アーティストでライターのマリー・アン・ラドマッカーは、「勇気とは、常に大きな声を張り上げることはありません。時には、1日の最後に小さな声で、明日もがんばろう、とつぶやくようなものも含まれます」

視野を広げる

神話学者のジョセフ・キャンベルは、独創的な研究『千の顔をもつ英雄』（邦訳：人文書院1984年）で、典型的な英雄の旅に見られる中心的要素を示した。

それはまず、自分のよく知っている環境から旅立つところから始まる。そして、特別な世界、すなわち悪魔と対峙し、困難や試練に直面し、かつて経験したことのない恐怖に遭遇する世界を通過する。その際に彼らは恐怖を克服し、最終的に「宝物」あるいは褒美を手にする。最後には自分がよく知っている環境に戻るが、彼ら自身は変化している。

今月号で取り上げている人々は、人それぞれ異なるものの、自分がよ

く知っている環境を去り、旅に出て成長した。アンゴラ人ラッパーのルイタ・ベイラオにとって、その旅は詩的、政治的、個人的なものだった。抑圧的な政府への批判を声にして投獄されたことで、彼は強くなった。彼は、「私は脅しを受け入れることはありません。もしも殺すと脅されてもです。やってみればいいでしょう。一歩進むごとに、私はさらなる次の段階に進めることを発見します。以前は想像できなかったような物事に取り組む度胸が自分にあることを、私は発見するのです」

今回紹介している勇気ある人々は、実際に不自由な状況に陥っているが、彼らは自身の行動によって恐怖を乗り越え、成長し、倫理的な意味での「宝物」を手に入れている。

究極の勇気

最後に、一部の人々が呼ぶところの「スピリチュアルな」[訳注：霊的、宗教的の意]勇気について触れる。これは、私たちが苦しみに耐える時、そして究極には死に直面する時に示すものと言えるだろう。それは、ほとんどの人々が心の底で最も



Jonathan Bachman/Reuters

しばしば武器よりも勇気の方が大きな威力を発揮する。アフリカ系米国人の若者がまた警察に殺され、抗議のためにルイジアナの警察官と向き合う女性。

恐れていることである。愛する人々が病気にかかり、たとえ末期症状になっても、彼らが勇気を保っているということを私も見たことがある。その姿に周囲の人々がいかに励まされ、勇気づけられていくのかも目撃した。それは、勇気がなす技である。勇気は、たとえ最悪のほとんど希望がないように思える状況にあっても、人々を励まし、良い意味で伝播する。

良い勇気と悪い勇気？

勇気に関する科学的な研究は、例えばイスラエルでは被験者をMRIにかけたところでヘビを見せるといった実験が行われるなど、興味深いものがあるが、いくらか心配な側面も見られる。

もしもこのような研究が、たとえ非倫理的でないとしても、兵士を「完璧な」何も恐れない戦闘員に変える「勇気づけ薬」の開発につながれば、それは深刻な問題となる可能性がある。

恐怖は、私たちが必要な行動を起こすことを抑制できる。しかし一方では、立ち止まって考えるちょっとした時間を与えてくれる。この仕掛けは、人が恐怖によって支配されることを防ぎ、そしてまた私たちが必要な時に恐怖を乗り越えていくことを可能にするためである。「恐怖には、向き合っていくという方法しかない」と言うのは、心理学者のノーム・スパンサーである。それは、継

続する動的なプロセスで完了することはないが、個人と世界に変化を起こすためには不可欠なものである。

もちろん、勇敢さは常に高潔な行動を伴うわけではなく、暴力的、軍隊的、男らしさを異常に誇示したり、グループが持つ規範に沿ったものになる場合もある。アブラメンコは言う。「これは、勇気のパラドックスです。一方では、自分に打ち勝ち、他の人々との強いかかわり合いに関連することですが、もう一方では・・・排他的で暴力的なのです」

彼は勇気に関する概念について、理論的に解決困難な状況でも前に進んでいく方法として、古代からの好戦的な勇気から、政治的で正義に基づいた勇気にシフトしていると考えている。今月号で焦点を当てている勇気の種類は、後者の正義に基づいたものである。それは断固たるもので、コミュニティを中心に据え、有害なものに抵抗したり、害を最小限にしたりする方向で努力する。

今月号のすべての物語に共通するテーマは、思いやり、そして勇気の善循環 [訳注：ある出来事の結果が次の出来事に良い影響をもたらす、それが繰り返されていくこと] によって育まれる仲間関係である。インタビューをした多くの人々が、他の人々の活動と献身的な働きから刺激を受けたと語っている。

そのような勇気は、健全な個人と社会にとって不可欠なものである。それは、意義があり目的を持った変化を作るものであり、狡猾で見せか

けだけで現実を反映せず、「勇気」という言葉に「無謀」という意味を含ませる皮肉な思考に挑むものである。

それは、より良い世界の構築に向け、人間の魂を刺激し、駆り立てていくのだ。◆

(1) Richard Avramenko, *Courage: the Politics of Life and Limb*, University of Notre Dame Press, 2011, <http://nin.tl/Avramenko-courage>
(2) Susan Jeffers, *Feel the fear and do it anyway*, Vermilion, 2012 (初版は 1987 年)
(3) Jeff Wise, 'What makes people brave', *Readers Digest*, 2013 <http://nin.tl/make-brave>
(4) Ian Sample, 'Natural born heroes', *The Guardian*, 2009, <http://nin.tl/stress-coping>
(5) Daniela Schiller, 'Snakes in the MRI Machine', *Scientific American*, 2010 <http://nin.tl/fear-studies>
(6) The Courage Foundation <http://nin.tl/Barrett-Brown>

(NI497 p10-13 The Brave の翻訳)

翻訳協力：平野千鶴子

.....

ボランティア翻訳者募集中

.....

New Internationalist の記事の翻訳を通じ、NI ジャパンの情報発信活動をお手伝いいただけるボランティアの方を募集しています。資格や経験は問いません。詳しくは NI ジャパンブログをご覧ください。

.....

<http://nijapan.blog.fc2.com/blog-category-15.html>

.....

NI JAPAN ニュー・インターナショナリスト日本版 2017年3月号 No.146 「勇気とは何か」

*今号は、New Internationalist No.500 March 2017 Brave からの翻訳です。
*文中の通貨表記のドルや\$は、特にただし書きがない場合はUSドルを表しています。

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン (有限会社 インティリンクス内)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-42-7-301 電話 /FAX: 03-6873-5935 nij@ni-japan.com <http://www.ni-japan.com>

本誌の内容を法律の範囲を超えて無断で転載・複写・複製することは、著作権の侵害となります。許諾についてはNIジャパンまでご連絡ください。